

中 | 環境研修



奈良学園は、平成24年度からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定され、「科学に強い子どもたちの育成」に取り組んでいます。

里山のある本校では、「自然と親しみながら、解決すべき環境問題にどのようにアプローチしていくかを学ぶ」環境研修を実施しています。今回は、その様子取材しました。

養父志乃夫先生の講義

（和歌山大学元教授、本校元SSH運営指導委員）

懐かしい風景には、未来を生きるための知恵が隠されている。

里山は、人・植物・動物が共存している。

里山の在り方から、これまで人が環境にどう向き合ってきたのかを知り、その結果である今の日本を見てほしい。

すでに絶滅したものや、絶滅危惧種とされる動植物が多く存在する理由を考え、これから自分たちがすべきことを考えてほしい。これからのために、生きるための知恵と知識と技を身に付けておくことがその一歩となる。

奈良学園では、里山で伐採した木を利用して炭を作るための炭化装置があり、その炭を木質バイオマス発電に利用するという試みを始めている。これから生きていく君たちにとって、里山での学びが、発見・研究をするきっかけになってほしいと心から願います。



先生の講義を熱心に聞いた後、先生方からのメッセージを心に留め、各クラスに分かれて実地研修を行いました。



本日の環境研修のテーマ

里山を再生して、生き物が住みやすい環境を取り戻そう。

本日のミッション

- ・生物のことを知ろう
- ・生物を守るために里山を保全しよう
- ・保全のためのテクニックを学ぼう

SSH部長
原先生



A組

「里山の営み」

A組は「里山の営み」というテーマのもと、日頃から里山の手入れをしていただいている庭樹園の先生にご指導いただき、里山の木々の伐採に挑戦しました。

シードバンクという「環境の中で眠っている種」に日を当て、芽吹かせられるよう木々を伐採するそうです。

のこぎりの使い方をしっかりと学び、一生懸命作業に取り組んでいました。



引くときに力を入れる！



B組

「棚田と生きもの」

B組は、棚田周辺に生息する生き物を観察しました。
トンボやバッタ、カエル、マムシ、オオゴキブリなどたくさんの生きものに会えました。あちらこちらから子どもたちの歓声が聞こえ、とても楽しそうに虫取りをしているのが印象的でした。
1学期に高校1年生が植えた稲が、暑い夏の間しっかりと育っていて、近づいてみると稲の良い香りがしました。

稲の良い香りがしたよ



ニホンアカガエル



何がいたかな?!



おんぶバッタ



ジョロウグモ



マムシの赤ちゃん



C組 「環境修復」

C組は、ゲンジボタルが生育しやすいよう、水路の流れを穏やかにするために蛇行した水の流れをつくる環境修復を行いました。土嚢を作り、川に配置。ホタルのエサであるカワニナは小さな貝なので、流されてしまわないように流れを穏やかにする必要があります。今いるカワニナは回収して、上流に戻してあげました。



たくさんのカワニナ



土嚢作り

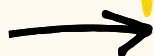


カワニナ捕獲中！



After

Before



流れが穏やかになったよ！

ありがとう

D組

「ため池と水の営み」

D組は、森の中の植物の観察とため池の水路修復を行いました。
土砂が溜まるとため池の環境が悪化するため、みんなでスコップと
バケツを使って土砂を運び出し、土嚢を作りました。
土嚢を積んで川の流れの修復を行いました。

土嚢作り



ホダネ



編集後記

里山を再生して、生きものが住みやすい環境を取り戻す
ことをテーマとした今回の環境研修。

短時間でしたが、本校ならではの恵まれた環境で、先生
方や指導員の方など、たくさんの方々にサポートして
いただき、子どもたちにとっても保護者にとっても学びの
多いひとときとなりました。ありがとうございました。

中学1年 学級委員一同

炭化装置



太陽光パネル



赤外線カメラ



蜂を誘致中！いつかハチミツを...

